

<2019年度 ハローオリンピック事業>  
**オリンピック教室**

**実施報告書**

**宮城県 仙台市立秋保中学校**





## 「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和元年5月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2019年4月～2020年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目  
運動の時間 (50分)



2時限目  
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

## 1時限目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動  
（作戦タイム等を設け、  
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

## 2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

### 座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」等  
を伝える



グループ（個人）ワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

# 実 施 内 容

■期 日 : 2019年6月18日 (火)

■ク ラ ス : 2年A組 (28名)

■オリンピアン : 千葉 真子 先生 (陸上競技) 【出場オリンピック/アトランタ大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (2時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・初めに大きな声で「こんにちはー！」と挨拶し、自己紹介した後、出場したアトランタ大会はずっと前の話になるが、オリンピックをより身近に感じていただけるように心を込めて授業を進めたいと話す。
- ・準備体操をした後、速く走るためのコツをアドバイスして、走り方とスタートの練習を実施。

## 2. 準備体操



## 3. 主運動



- ・絆リレー (6人7脚) を実施。ハチマキで足を結ぶところからスタートし、女子から反対側の男子にハチマキをバトンとして渡す。
- ・オリンピックバリュー (エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト) を意識しながらチャレンジしてほしいと話し、作戦タイムを設けながら行った。

## 4. まとめ



- ・オリンピックバリューはオリンピック選手だけのものではなく、皆の身近にあること。次の座学の時間では、運動の時間で体感してもらったことをグループワークで考えようとする予告し、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（3時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・皆の優しい気持ちを垣間見ることができたと運動の時間に感じたオリンピックバリューを振り返った後、映像を見せながら、一生懸命になればなるほど怪我も多く、欲が出るほど壁にぶつかり、挫折することもあったが、苦勞を乗り越えながらマラソンを走り抜いてきた、と自己紹介。

3. グループワーク



発問：1学期に達成したい目標について考え、達成するために何をどのようにすればよいか具体的にオリンピックバリューに当てはめて考えよう。

発表：「体育祭／一生懸命取り組み、競技を盛り上げる」(合唱／諦めない、表情を柔らかく) (エクセレンス)  
 「体育祭／一人ひとりが思いやる」(合唱／周りの声を聴く) (合唱／一致団結) (合唱／お互いを知る) (フレンドシップ)  
 「体育祭／ルールを守り楽しむ」(合唱／意見を共有する) (合唱／仲間に感謝する) (リスペクト)

4. まとめ



・オリンピックは遠い存在のように思えるが、皆の日常生活の中にもオリンピックバリューは見出せる。オリンピック選手は特別な存在ではなく、皆と同じように悩んだり、壁にぶつかったり、挫折を繰り返している。成功はほんのわずかで、泥臭いことを繰り返し、反復練習をしている。  
 ・小さな目標の積み重ねが未来につながるため、苦しい時や悩んだ時にこそオリンピックバリューを思い出し、生きる力につなげてほしい。  
 ・東京2020大会では選手の生き様や競技に打ち込んできた背景を想像しながら応援してほしい。是非、皆で皆のオリンピックを実現させよう、と伝え、授業終了。

■ 集合写真

2年A組



■ 記念品贈呈

2年A組



■ 修了証贈呈

